

日本薬局学会 認知症研修認定薬剤師

新田 圭子 先生

勤務先：医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院

出身地：石川県金沢市

資格取得年：2018年1月

Q1. 資格取得のきっかけは何でしたか？

A. 平成28年度診療報酬改定にて「認知症ケア加算1・2」が新設され、当院においては、認知症ケア加算1の算定取得するため「認知症ケアサポートチーム」が発足しました。自分もそのメンバーに入りましたが、薬剤だけではなく病態についての知識不足を痛感していた頃、同年よりこの認知症研修認定薬剤師制度が創設された事を知り、自分の勉強のために資格取得を目指すこととなりました。

Q2. 資格取得の最大の難所はどこでしたか？

A. 3症例の症例報告です。他の資格に比べると症例数は少ないですが、認知症の行動・心理症状には非薬物療法を薬物療法より優先的に行うことを原則としているため、薬物療法における問題点2つ以上を提示できる症例が少なかったことです。

また、認定試験は、テキストとe-ラーニング60講座から50%ずつ出題するということもあり、e-ラーニングの聴講にも時間をかけたことです。

Q3. この資格のやりがいは何ですか？

A. 認知症ケアサポートチームや担当病棟において、薬物療法を中心に参画し、他職種と連携して対応していき、認知症の人がその人らしく入院生活を送れるようになっていかれた時です。

Q4. 普段のお仕事でこの資格はどのように活用されていますか？

A. 特に資格を活用しているとは思っていませんが、薬物療法における問題点の意識付けが高まったように感じています。

Q5. 資格を取得して良かったな、と感じる事柄はありましたか？

A. 認定に必須であるワークショップの参加により、薬局薬剤師の認知症患者のみならず、その家族への対応症例の話を聞くことができ、行政サービスや介護保険等の知識が豊富であることに驚き刺激を受けたことです。

Q6. 医師や看護師などとのディスカッションで気をつけていることはありますか？

A. 認知症患者の現在の一番の問題点が何であるか、また患者背景等を情報収集し把握することにより、その患者にあった処方を提案するように心がけています。

Q7. 患者さんに接する際に気をつけていることはありますか？

A. 意思疎通が困難である患者に対してもその人らしさを尊重し接するようにしています。

Q8. その際に印象的だったエピソードはありますか？

A. いつも穏やかであった認知症患者が突然不穏状態となり、会話がなりたたなくなった際に、他職種と薬剤や環境についての問題点を話し合い、調整を行い、できるだけ患者の話を傾聴していくうちに今まで通りの穏やかな患者にもどったことがありました。  
周辺症状は、いつまでも続くわけではなく、時期や環境変化により消失することが多いといわれているのを実感した症例でした。

Q9. その他、苦心していること、気を遣うことなどはありますか？

A. 認知症の患者は、一般の患者に比べてコミュニケーションが困難な場合が多く、問題点がわかりにくい場合があること、また、全ての患者に同じ薬剤が有効であるわけではないため薬剤選択に苦慮する症例があります。

Q10. この資格を目指している後進へ何かアドバイスを！

A. 認知症高齢者は、これから増加する一方であり、認知症対策は、国として重要な課題となっており、医療の必要性が大きく求められるようになってきています。その医療に薬物療法を中心に貢献できるような薬剤師を目指してみてもいいかもしれません。

Q11. この資格の取得要件をお教えてください。

A.

- ① 日本国の薬剤師免許を有し、薬剤師として優れた人格と見識を備えていること。
  - ② 日本薬局学会の正会員であること。
  - ③ 薬剤師としての実務の経験を3年以上有すること。
  - ④ 本学会が指定する認知症領域のe-ラーニングを20単位（60講座）以上有していること。
  - ⑤ 本学会が認定するワークショップで6単位（基礎編及び応用編）有していること。
  - ⑥ 認知症サポーターを取得していること。
  - ⑦ 認知症の人への介入事例を3例以上提出すること。
  - ⑧ 別途実施細則に定める認定試験に合格していること。（合格認定証を添える）
  - ⑨ 薬剤師認定制度認証機構で認められた研修認定薬剤師を取得していること。（※）
  - ⑩ 職場長（薬剤部科長あるいは薬局長等）の同意があること。
- ※公益社団法人薬剤師認定制度認証機構（CPC）でご確認下さい。
- ⑪ 上記の認知症領域のe-ラーニング、ワークショップで単位取得開始後、4年以内に申請すること。